

2016年7月6日

株式会社スプレッド

同志社大学内 スタンフォード日本センター主催**「イノベーション」をテーマにした講演会で****スプレッドが登壇しました**

株式会社スプレッド（本社：京都市 代表取締役社長：稲田 信二、以下「スプレッド」）は、2016年6月7日（火）、同志社大学（京都市）で実施された、アメリカ・スタンフォード大学の日本留学プログラム「Stanford Program in Kyoto」のイノベーションをテーマにした講演会「Innovation in Japan」（主催：スタンフォード日本センター）にゲストスピーカーとして登壇し、農業や世界の食料問題におけるイノベーションについて講演を行いました。

同講演会は、スタンフォード大学が同志社大学に設置した、「スタンフォード日本センター」が主催し、スタンフォード大学の日本留学プログラム「Stanford Program in Kyoto」のカリキュラムの一環として実施されました。京都、日本、世界の様々な分野で活躍する企業・団体がゲストスピーカーとして登壇し、それぞれの観点での「イノベーション＝革新」の創出について話し合いました。スプレッドのほかにネスレ日本株式会社、京都大学、15BIS LIAISON OFFICE などからゲストスピーカーが招かれ、各社・団体のプレゼンテーションの後、日本におけるイノベーション創出の課題と展望についてパネルディスカッションが行われ、意見交換が行われました。

スプレッドからは、グローバルマーケティング室のプライスが登壇し、イノベーションとは既存の問題点を乗り越えるための新たなアイデア、価値であると定義。その上で日本および世界の農業が抱える高齢化などの問題や、世界的な食料不足を克服するために生み出されたイノベーションとして、野菜工場事業を開始したことを述べました。さらに『Vegetable Factory™』（後述）の今後の国内外の事業展開について説明。固定概念にとらわれず、外部との共同によるイノベーション創出の重要性について語りました。

スプレッドは、持続可能な農業の実現に向けて、各分野と連携と協力を重ね、今後もさらなる技術革新に挑戦し続けてまいります。

News Release



講演会の様子

◆『Vegetable Factory™』とは

スプレッドが保有する野菜工場の栽培技術やノウハウを生かし、国内の設備・技術メーカーとの共同開発により完成した最先端野菜生産システムです。この新システムにおいて、大規模野菜工場による栽培自動化、水資源リサイクル、自社開発野菜専用 LED 照明、空調制御システムなど、多くの新技術が誕生しています。また、野菜工場の大きな課題であるコスト面においては、現在、自社で運営する野菜工場「亀岡プラント（京都府亀岡市）」と比較し、人件費 50%、電力費 30%など大幅なコスト削減を実現しました。

【本リリースに関する問い合わせ】

株式会社スプレッド 広報部 森田、安藤

E-mail: info@spread.co.jp

Tel: 075-326-3850